

猪口邦子

●上智大学教授、前・軍縮会議日本政府代表部特命全権大使

願いとっては、中東和平への期待を含め和平と和解の考えが強く打ち出される年になってもらいたい。樂觀はできない。深い憎悪の念に根ざす今日の暴力の循環や再発を断つには、和平協定への政治プロセスのみでなく、社会各層が和解を試みる社会プロセスが必要である。憎悪を超えて、新たな平和へのパラダイムに人は行き着くことができるのか。

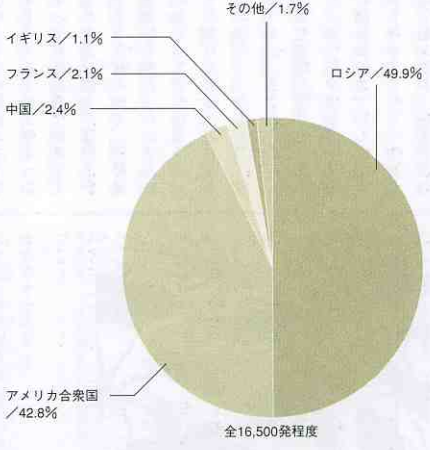
国連改革

アナン国連事務総長のためのハイレベル諮問委員会の答申が2004年末に出ることから、2005年は安全保障理事会常任理事国の増枠を含め、国連改革の議論が進展すると思われる。日本は1月1日から安保理の非常任理事国となるので、日本の関心も世界の戦争と平和の問題に



パウエル国務長官の後を継いだコンドリーザ・ライス博士。

世界の核弾頭数 (2003年1月現在)



『世界国勢図会 2004/05』より

向かいやすい年となる。9月の国連通常総会は、大型の首脳会議の形態にもなる予定とされる。

女性VIP

ブッシュ大統領の国家安全保障補佐官として実績を積んだコンドリーザ・ライス博士が米国務長官に就任することにより、専門性の高い女性VIPの存在感が国際政治の場で増していくであろう。4年後の米大統領選挙におけるヒラリー・クリントン出馬への期待も早くも高まり、その動静も注目されよう。

イラクの選挙においても、女性候補の当選が面白い話題になりうる。日本では内閣府の男女共同参画会議の活性化が求められる。

アフリカの年

2005年のG8サミットでは英国が議長国の番となるが、英国政府はすでにその2大テーマは、①環境、②アフリカ、と公表している。2005年はまた、世界の貧困撲滅を掲げた国連ミレニアム開発目標の中間考査の年でもあり、アフリカの平和構築と貧困撲滅が大きく注目されよう。アフリカ関連の日本の議員連盟も活発である。



アフリカの貧困問題が2005年G8の大きな議題に。

軍縮・不拡散

5月に、核兵器不拡散条約(NPT)の5年ぶりの重要な運用検討会議がNYで開催され、不拡散体制の不徹底の問題がクローズアップされる予定。同条約からの脱退を表明してきた北朝鮮を戻すことができるかが問われることとなり、それに向けた非核化への6者協議の強化が、2005年前半の国際政治の中心課題となる。通常兵器では、さらに国連で小火器軍縮の会議が開催される。

インド・非同盟諸国会議の50周年を記念して、インドネシアの首都ジャカルタ郊外のバンドン市にアジア、アフリカの首脳が大集合する予定も伝えられている。